



プラットフォームイベントフィルタの設定

この章は、次の内容で構成されています。

- [プラットフォーム イベント フィルタ, 1 ページ](#)
- [プラットフォーム イベント アラートのイネーブル化, 1 ページ](#)
- [プラットフォーム イベント アラートのディセーブル化, 2 ページ](#)
- [プラットフォーム イベント フィルタの設定, 3 ページ](#)

プラットフォーム イベント フィルタ

プラットフォーム イベント フィルタ (PEF) は、アクションをトリガーしたり、ハードウェア関連の重要なイベントが発生したときはアラートを生成したりできます。PEF ごとに、プラットフォーム イベントが発生したときに実行するアクション (またはアクションを実行しないこと) を選択できます。また、プラットフォーム イベントが発生したときにアラートを生成して送信することもできます。アラートは SNMP トラップとして送信されるので、アラートを送信するには、先に SNMP トラップの宛先を設定する必要があります。

プラットフォーム イベント アラートの生成はグローバルにイネーブルまたはディセーブルにできます。ディセーブルにすると、PEF がアラートを送信するように設定されていても、アラートは送信されません。

プラットフォーム イベント アラートのイネーブル化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope fault	障害コマンド モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	Server /fault # set platform-event-enabled yes	プラットフォーム イベント アラートをイネーブルにします。
ステップ 3	Server /fault # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 4	Server /fault # show [detail]	(任意) プラットフォーム イベントアラートの設定を表示します。

次に、プラットフォーム イベント アラートをイネーブルにする例を示します。

```
Server# scope fault
Server /fault # set platform-event-enabled yes
Server /fault *# commit
Server /fault # show
Platform Event Enabled
-----
yes
Server /fault #
```

プラットフォーム イベント アラートのディセーブル化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope fault	障害コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /fault # set platform-event-enabled no	プラットフォーム イベントアラートをディセーブルにします。
ステップ 3	Server /fault # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 4	Server /fault # show [detail]	(任意) プラットフォーム イベントアラートの設定を表示します。

次に、プラットフォーム イベント アラートをディセーブルにする例を示します。

```
Server# scope fault
Server /fault # set platform-event-enabled no
Server /fault *# commit
Server /fault # show
Platform Event Enabled
-----
no
```

Server /fault #

プラットフォーム イベント フィルタの設定

次のプラットフォーム イベント フィルタに対する処理とアラートを設定できます。

ID	プラットフォーム イベント フィルタ
1	温度緊急アサート フィルタ
2	温度警告アサート フィルタ
3	電圧緊急アサート フィルタ
4	プロセッサ アサート フィルタ
5	メモリ緊急アサート フィルタ
6	ドライブ スロット アサート フィルタ
7	LSI 緊急アサート フィルタ
8	LSI 警告アサート フィルタ

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope fault	障害コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /fault # scope pef id	指定したイベントに対してプラットフォーム イベント フィルタ コマンド モードを開始します。 イベント ID 番号に対応するプラットフォーム イベント フィルタの表を参照してください。
ステップ 3	Server /fault/pef # set action {none reboot power-cycle power-off}	このイベントが発生した場合に必要なシステムの処理を選択します。次のいずれかの処理を選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> • none : システム アクションは実行されません。 • reboot : サーバがリブートされます。 • power-cycle : サーバの電源が再投入されます。 • power-off : サーバの電源がオフになります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	Server /fault/pef# set send-alert {yes no}	このイベントに対するプラットフォーム イベントアラートの送信をイネーブルまたはディセーブルにします。 (注) 送信するアラートについて、フィルタトラップを正しく設定し、プラットフォーム イベントアラートをイネーブルにする必要があります。
ステップ 5	Server /fault/pef# commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。

次に、イベントに対するプラットフォーム イベントアラートを設定します。

```
Server# scope fault
Server /fault # scope pef 1
Server /fault/pef # set action reboot
Server /fault/pef # set send-alert yes
Server /fault/pef *# commit
Server /fault/pef # show
Platform Event Filter Event Action Send Alert
-----
1 Temperature Critical Assert Filter reboot yes

Server /fault/pef #
```

次の作業

PEF を設定してアラートを送信する場合は、次のタスクを完了させます。

- プラットフォーム イベントアラートのイネーブル化
- SNMP トラップ設定の実行